

審査の結果の要旨

氏 名 チョン マイケル チョンホ

本研究は、代表的な組織理論である保有する資本に基づく考え方と動的能力に基づく考え方を統合するモデルを用いて、組織の競争力や業績をより有効に説明可能であることを韓国の建設コンサルタント業を対象に実証することを目的としている。

第1章は、序論であり、本研究の背景、目的と本研究で対象とする範囲、方法、研究の構造を示している。

第2章では、研究対象とする韓国建設コンサルタント業の概況と建設コンサルタント業における人的資源マネジメントの特徴、組織マネジメントにおけるチームの位置づけと国内外の事業の違いを示している。韓国において建設コンサルタント業を営む企業は、2010年時点で2759社が登録されており、国内市場規模は、約47億8千万米ドル（2011年時点）である。建設コンサルタント業は、建設事業の計画段階から維持管理段階のあらゆる段階において関与している。その提供するサービスは、専門性に裏付けられた技術的サービスであり、個々の建設事業のニーズに対応した技術の提供が求められる。さらに、これらは各企業内の専門家を集めたチームによって対応することが一般であることを明らかにしている。

第3章では、経営学における組織理論のレビューを行っている。まず、組織が保有する資本がその目的を達成するための源泉であるという考え方に基づく理論をレビューし、本研究で対象とする建設コンサルタント業におけるチームにおける資本は、人的資本、構造的資本、社会的資本に分類可能であることを示している。次に、2000年代に入り盛んになった、組織の資本と業績の関係を繋げるメカニズムを説明する理論である、いわゆる動的能力に関する研究をレビューしている。本研究においては、チームの保有する資本を効率的に活用すると同時に、革新性を有効に創造できる能力である両面性を取りあげ、資本と業績を繋ぐ影響要因として選択している。さらに、対象としている建設コンサルタント業における両面性に関する論点とこれらの組織の資本と成果の関係を経験的に実証するためには、チームのレベルにおける評価が必要であることを示している。

第4章では、本研究において設定したモデルと研究仮説について詳述している。まず、韓国の建設コンサルタント業を対象に、チームが保有する資本がチームの両面性、すなわち資本の活用能力と創造能力に影響を与え、結果としてチームの業績を左右するというモデルを設定し、ここから4つの研究仮説を提示している。すなわち、(1) チームが保有する資本は、チームの業績に正の影響を及ぼすこと、(2) チームの保有する資本は、チームの両面性に正の影響

を及ぼすこと、(3) チームの両面性は、チームの業績に正の影響を及ぼすこと、さらに(4) チームの両面性は、チームの保有する資本と業績の関係を繋ぐ役割を果たすことである。

第5章は、仮説を検証するために実施したアンケート調査の方法について示している。韓国の11の建設コンサルタント企業における150チーム、1211人の雇用者を対象として、2013年2月から3月にかけて実施された調査では、119チーム、1102人から有効回答が得られている。独立変数として、資本に関する質問を12項目、従属変数として、国内外の業績に関する質問を9項目、中間変数として、両面性に関する質問を10項目準備し、それぞれ7段階で評価するように設定されている。得られたデータは、SPSSを用いて統計的に分析されている。

第6章は、調査によって得られたデータの統計分析結果とそこから得られる示唆について纏めている。まず、得られたデータ及び変数の有効性を確認し、多変量解析を行った結果、チームが保有する資本とチームの業績の間には、正の相関が見られるものの弱いため、これら以外の影響要因の存在が示唆されること、チームの保有する資本とチームの両面性の間にも正の相関が見られるが、これも強くないこと、これらと比較して、チームの両面性とチームの業績の間の正の相関が比較的強いことが明らかとなっている。また、チームの両面性が資本と業績の間を繋ぐ効果を検証すると、人的資本や構造的資本については、その効果が強く現れるものの社会的資本については、業績への直接的影響が無視できない程度に大きいことが示されている。さらに、チームの資本や両面性と革新的業績や効率性に関する業績の関係、チームの規模の影響、コンサルティングにおける専門分野の違いの影響等についても、詳細な分析を実施している。

第7章は結論であり、本研究で得られた成果を取り纏めるとともに、得られた成果の学術的および実用的な貢献を整理している。さらに、今後の研究課題として、本研究で得られた成果を一般化するための課題、対象とするチーム構成の課題、チームの業績評価におけるバイアスの課題、チームの動的な変化に対する考慮、チームの両面性に関する定義の仕方、さらにチームの資本と業績を繋ぐ変数の設定の仕方等に関する課題を挙げている。

本研究は、組織の経営に関するチームの資本や能力と業績の関係のモデルを、韓国における建設コンサルタント業を対象に初めて適用し、膨大な調査から統計的に実証を試みたものである。得られた成果は、対象とした標本やアンケート調査の方法、さらに多変量解析という手法等の限界から限定的ではあるが、チームの資本を資本の活用と創造性の両面性と呼ばれる能力を介して、チームの業績に結び付ける構造式を提示することに成功している。

よって、本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。